

立川市立第二小学校 令和2年度学校経営計画

校長 吉岡 正司

I 教育目標（目指す子供像）

- 健康で明るい子（自己受容力・自己肯定力、最後までやり抜く力）
- 進んで学習する子（見通しをもつ力、創造する力、思考力・判断力・表現力）
- 心豊かで思いやりのある子（他者を受け入れる力、折り合いをつける力）

II 令和2年度学校経営計画

1 目指す学校像

「お互いさまという心をもって、二小に集うすべての人が手応えを感じられる学校」

- ・子供が学ぶことに手応えを感じられる学校
- ・保護者・地域の人々が協力・協働することに手応えを感じられる学校
- ・教職員が子供たちを教え育てることに手応えを感じられる学校

2 目指す教師像「自ら学び続ける教師」

- ・常に学び続け、教育に対して創造的に取り組める教師
- ・子供や保護者の気持ちを推し量り、寄り添える教師

II 本年度教育活動の目標とその方策

1 助け合う、創造的なチームを目指して

- 目的を共にし、役割に沿って創造的に公務に取り組む。
 - ・駒感覚でなく、指し手感覚で！
- 一人で抱えることなく、強みはチームのために、弱みはチームの力を頼る。
- 風通しを良く！報告・連絡・相談の徹底
- 機動力・足で稼ぐ 手紙より電話！ 電話より訪問！
- 働き方改革。誰もが働ける職場にしていこう！ ちょっと難しいけれど・・・。

2 健康で明るい子（自己受容力・自己肯定力、最後までやり抜く力）

- 子供たちの心情を推し量り、寄り添う。（「大丈夫！」という言葉霊の威力）
- 子供たちの行動を他者への貢献（役に立っている）として価値付けていく。
- 各種行事を通して、挑戦することや最後までやり抜く経験を積ませる。
- 体育・食育を計画的・系統的に行い体力の向上を図る。
 - ・体育的集会や体力向上推進月間の充実や外遊びの励行
 - ・オリパラ教育の推進→「世界を知る」ための一つの入口としてオリパラ！
- 家庭と連携をし、早寝・早起き・朝ご飯の習慣化を図る。

3 進んで学習する子（見通しをもつ力、創造する力、思考力・判断力・表現力）

- まずは私たちが授業力を磨きましょう！
 - ・私たちのアカデミックでありたいという想いが、子どもたちの意欲を高める
 - ・校内研や立小研の活用、OJT・OFF-JTの活用。
- カリキュラムマネジメント
 - ・身に付けさせたい力を明確にした教科横断的な授業作り
- 少人数習熟度別学習の充実や補充的学習の充実、家庭学習の習慣化を図り、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。
 - ・学年毎の具体的な到達目標を決めるとよいと思います。
 - ・ベーシックドリルの活用と補充学習の充実
- 思考力・判断力・表現力を育成するために昨年度までの研究の成果を十分に活用し、主体的・対話的な深い学びを推進する
 - ・子供にとってのめあての設定（主体性の担保）、個の考え→グループ学習→個の再構築
 - ・もっと良い考えはないか、もっとほかの方法はないかといった自問

- ・ 隙間時間の読書活動の励行
 - 未熟なうちに任せる。 *子供の力を信じて、じっと待つ!
 - 特別の教科「道徳」及び外国語活動の充実
 - ・ 個人内で葛藤のある授業、「本当にそれができるか!」という実践への移行
 - ・ 英語が苦手であることを強みに! (必死に伝えようとする姿が大切です)
- 4 心豊かで思いやりのある子(他者を受け入れる力、折り合いをつける力)
- 体験的な学習や各種交流を通して、多様性を尊重し、共生する力を身に付けさせる。
 - 人権感覚・自尊感情を高め、組織的にいじめの未然防止、早期発見、早期対応を図る。
 - ・ 人権尊重教育の研究を「本校の生き方教育の土台」に位置付けられるものにしたいですね。
 - ・ 隙間時間の子供たちの様子にアンテナを向けましょう。(休み時間や帰りがけ!)
 - ・ SNSルールの徹底
 - 「二小ベーシック」に基づく全校統一した生活指導を実践しましょう。
 - 保育園や幼稚園との交流、中学校との交流、地域の方々との交流など人との関わりを通して、自尊感情やコミュニケーション能力を高めるとともに、共生の意識と態度を育てていく。
 - 家庭・地域と連携し、実践を通して自分の身は自分で守る児童を育てる。
- 5 特別支援教育
- 教員の特別支援教育にかかる科学的な知識理解とスキルの向上。(レジリエンスを学びましょう)
 - 不登校児童への働きかけと居場所作り
 - 環境面、授業面でのユニバーサルデザイン化
 - 子供たちの自主自立を促すために、自ら考え行動できるよう指導、支援する。
 - 特別支援教育の視点に立ち、キラリ教室をはじめ、関係諸機関と連携し、一人一人の児童の特性に合った指導をしていく。
 - 校内委員会の機動力アップとケース会議の充実
- 6 地域に開かれた教育
- 二小の目指す教育を保護者や地域と共有し、「社会に開かれた教育課程」として協働していく。
 - ・ コミュニティスクールの推進
 - ・ 地域学校協働本部事業を充実。
 - 地域は大きな教室ととらえ、家庭や地域と協働して、規範意識を育てる。多様な人々との交流を通して社会性を身につけ、地域を知り、愛し、地域の一員としての自覚を育てる。
 - 学校便り、ホームページ、学校公開などを通じて、教育活動を積極的に知らせ理解と協力を得るとともに、地域人材を招き、市民力を生かした教育を進めていく。
 - ・ 立川市民科の充実
 - ・ 授業への保護者参加→整ってから呼ぶのではなく、困っているから呼ぶ!
- 7 教育公務員としての自覚と責任
- 教育公務員としての自覚と責任を高める。
 - ・ 「これくらいなら」との闘い!
 - 教職員一人一人の意識の向上とシステムの工夫
 - ・ 風通しの良い職場の雰囲気づくり 「気づいたら声に出す!」
 - 「ヒヤリハット」を常に自分事として捉えましょう。